

学 校  
だより

# とうえい

第26-10号  
平成27年2月24日  
尾張旭市立東栄小学校

## 優しさと厳しさ

校長 松 本 浩 一

厳しい寒さの中で一見枯れ木のように見える木々も、その外見の裏側では、芽吹く準備を着々と進めています。冬の間蓄えた養分があるからこそ、春の訪れとともに美しい花を咲かせることができるのです。

3学期のこの時期、子どもたちには、自分の目当てをもう一度心に刻み、日々の努力を積み重ねて、春に備えてほしいと願っています。

さて、草や木の生長にとってなくてはならないのが、雨の日であり、また、よく晴れた日です。どちらもちょうど良いバランスで繰り返されると、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。もし、雨ばかり降っていれば、植物は根が腐って育ちません。逆に、晴れの日ばかりでも水分がなくなって枯れてしまいます。このように、植物の生長には反対のもの同士が必要です。

子どもの心の成長にも、雨と晴れのようにまったく反対のものが必要なのではないのでしょうか。それは、「優しさ」と「厳しさ」です。

「優しさ」だけでは甘えが出たり、わがままが出たりして、良い心は育ちません。また逆に、「厳しさ」だけでも気持ちがすさんだり、いじけたり、いらいらしたりして、良い心は育ちません。



子どもたちは時々失敗をすることがあるかもしれませんが、そのときに注意されたり、励まされたりすることによって、的確な判断ができる人間に育っていきます。このようなことを繰り返し経験することにより、社会の一員として、自覚をもった人間に成長していくのだと思います。学校と家庭のより多くの眼で子どもたちの成長を見守っていきましょう。

## 転出入のご連絡をお願いします

そろそろ来年度のことを考える時期になってきました。現在、来年度の在籍児童見込数の集計をしています。

たった1人の増減で、学級数が変わってくる場合もあります。

転出入の情報がありましたら、早めに学校までご連絡いただきますようお願い  
します。

## “なわとび大会”で成長のあと

1月28日に、恒例のなわとび大会が行われました。今年の東栄小学校は幸いインフルエンザの流行の影響をあまり受けず、学級閉鎖もない中で順調に実施できました。個人種目は低学年は合格者が多かったものの、種目の難易度が高い高学年（あや跳び1分間と二重とび30秒間）は、なかなか時間内を跳びきることができません。それでも真剣な表情で挑



み、ダブルタイトルを達成する子もいました。

他方団体種目は、高学年は“一斉跳び”でした。クラスの中でチーム分けを工夫し、協力して頑張りました。5年生と6年生、1年の差でここまで、と思わせる違いが見られました。練習を通じて、どの子もしっかり伸びました。

## 善戦！バスケットボール部

2月中旬に行われた“瀬戸地方小学生ミニバスケットボール冬季大会”では、女子チームが準々決勝で瀬戸夏大会2位の強豪、長根小に敗れはしたものの、最後の最後まで食い下がり、夏の市民大会2位の意地を見せました。試合終了後も力を出し切ったので、満足げな表情が印象的でした。



男子は1回戦で瀬戸の実力派、八幡小学校との対戦でした。1ゴールを争う緊迫した戦いの結果、わずか2点（1ゴール）差で惜しくも敗退しましたが、その後の交流戦では瀬戸3位の幡山東小を相手にワンサイドゲームを演じ、今年度の活動のよい幕引きとなりました。たくさんのご声援を頂きました。ありがとうございました。



## ファンファーレバンド部も活躍

ファンファーレバンド部は、文化会館ホールで行われた尾張旭市生涯学習フェスティバル・オープニングイベントの「元気に届け！鼓笛演奏」に出演しました。運動会や市民祭でも聞いていただいた2曲に加えて、秋から練習した新曲も披露しました。音響効果の良い大きなホールでの演奏を経験し、子ども達は「気持ちよかったよ」と感動を話していました。保護者の方にもたくさん聞きに来ていただきました。

児童集会でも同じ3曲を演奏しました。体育館いっぱい響く音色に、盛大な拍手が沸き起こりました。

